



目次

- P1 …療育キャンプに行ってきました
- P2 …草の実病棟 短期間の入院・入所のご紹介
- P3 …入院中の学校です（草の実分校）
- P4 …センター紹介 【薬局】

カラフルとは、個性豊かな子ども達とその子らしく過ごしていくことや、時には他の色と混じって新しい色をつくりあげていくことを表現しました。

「できた!」「もう1回行きたい!」 ワクワク、ドキドキの3日間

療育キャンプに行ってきました。 (あすなる病棟)



▼ 御在所登山。頂上目指して頑張りました。

新型コロナウイルス感染症の収束が見えない状況のなか、当センターに入院している子どもたちは、マスクの着用や手指消毒など、感染対策を日頃のルーティンとしながら入院治療を頑張っています。



▼ みんなでアスレチックにチャレンジ

そのようななか、あすなる病棟では、9月29日～10月1日、感染予防策を講じながら四日市市の朝明溪谷へ療育キャンプに行ってきました。療育キャンプは、病棟生活とは異なる非日常の中で、子どもたちがさまざまな社会体験をすることを目的としています。役割分担をしながら活動を最後までやり遂げることにより協調性や社会性、自己肯定感の向上が期待でき、子どもたちの成長を促進することができます。

グループ目標や食事メニュー決め、食事作り・登山・火起こしの練習など、子どもたちはこの日のために1ヶ月もの間、一生懸命事前活動に取り組んできました。時には『やったことない…』『あの子とは喋ったことないから嫌…』『登山に行きたくない…』と不安や緊張を口にすることもありましたが、子どもたちは職員の支援を受け、諦めず少しずつ不安や緊張を乗り越えながら、みんなでキャンプ当日を迎えることができました。



▼ グループでカレー作り。おいしかったよ。

当日は、晴天に恵まれ、アスレチックや川遊び、カレー作り、登山、BBQ、キャンプファイヤーなど、仲間たちとともに協力してたくさんのごことに挑戦した ワクワク、ドキドキ の3日間でした。キャンプ終了後、『キャンプ楽しかった』『もう1回行きたい』等の感想もたくさん聞かれました。コロナウイルスに負けず、職員と子どもたちが一体となって取り組んだことが、子どもたちの大きな自信と達成感に繋がりました。これからも子どもたちがさまざまな社会体験に主体的に挑戦し「できた!」「僕・私頑張ったよ」「すごいでしょ!」と自信を持って言えるようキャンピングクラブ委員会の企画につとめていきたいと思っております。入院治療を通して、子どもたちが少しずつ成長していく姿を見ていただけることを願っています。

▶ みんなで川遊び。
楽しかったよ。



(※) キャンピングクラブとは
入院治療における大規模な集団活動を
企画運営する委員会です。

～地域での生活の支援に向けて～

草の実病棟(小児整形外科病棟)での短期間の入院・入所のご紹介

草の実病棟では、長期間の入院・入所に加え、集中リハビリテーションを目的とした短期間の入院(特定目的入院、親子入院)や、自宅で子育てを行っている方の病気等の場合や休息を目的に医療型短期入所(ショートステイ)を行うなど、肢体不自由や重症心身障がいのあるお子さんやご家族の在宅生活を側面的にサポートしています。また、近年増加傾向にある医療的ケア(胃ろう等)が必要なお子さんについても一部受け入れを進めているところです。

<特定目的入院>

肢体不自由や重症心身障がいのある高校3年生までのお子さんを対象に、平日のみの短期間、健康保険を利用した集中リハビリテーション目的のお子さんお一人での入院を提供しています。お子さんや保護者とご相談の上、具体的な入院目標を決めて取り組みます。目的・目標に応じて理学療法(PT)、作業療法(OT)、摂食機能療法・言語療法(ST)、看護師による病棟リハビリテーションや日常生活指導(入浴、排泄、更衣等)、保育士による保育を行います。



<親子入院>

肢体不自由や重症心身障がいのある就学前のお子さんとその保護者を対象に、平日のみの短期間、健康保険を利用した集中リハビリテーション目的の入院を提供しています。お子さんと保護者(きょうだい児も含む)が一緒に入院し、専門スタッフとともにお子さんへの関わり方を学んでいただき、日常生活に活かしていただくことを目的としています。



<医療型短期入所(ショートステイ)>

重症心身障がいのあるお子さんの子育てを行っているご家族が病気等の理由により一時的に子育てを行うことができない場合やご家族のレスパイト(休息)を目的に、障がい福祉サービスとして短期間入所していただき、入浴、排泄、食事のほか必要な支援を行います。なお、草の実病棟では宿泊だけでなく日帰りでの短期入所もお受けしています。短期入所の利用に際してはお住いの市町の発行する受給者証が必要となります。



入院中の子どもたちが通学している学校を紹介します。今回は草の実病棟(小児整形外科病棟)の子どもたちが通学しているかがやき特別支援学校草の実分校です。

かがやき特別支援学校 草の実分校

本校は併設する三重県立子ども心身発達医療センター小児整形外科病棟、隣接する三重病院整形病棟、重心病棟に、入院している児童・生徒の教育活動を行っています。在籍する児童生徒は肢体不自由の教育部門の小学部・中学部・高等部で学ぶことができ、バリアフリーの環境の学校です。

1日の流れ

8:40	登校
8:50~12:25	授業
12:25~	帰院・病棟で昼食
13:10	登校
13:20~15:00	授業
15:00	下校



校章

3枚の葉は連携する3校(かがやき特別支援学校・草の実分校・あすなろ分校)を表しています。そこで学ぶみなさんが明るく健やかに育ち、光り輝く様子を表現しています。

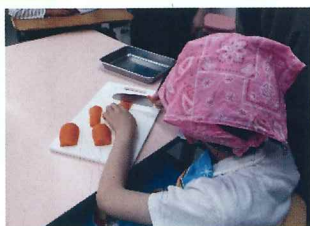
(校章制作:ユUNETTみらい)

「小学部1年生」の時間割(例)

	月	火	水	木	金
8:40	登校				
1	日常生活の指導				
2	自立活動(からだ)				
3	自立	体育	生活	自立	図工
4	道徳	算数	図工	生活	音楽
5	音楽	国語	特活	算数	国語

行事や授業の様子

*草の実HPより



5月18日 『調理実習』(小学部)

生活の学習で、昨年度から育てていたにんじんを収穫し、スープを作りました。みんなで役割分担をして、にんじんを洗ったり、切ったり協力して作りました。できあがったにんじんスープは、おいしくいただきました。



5月30日 『防災学習 避難訓練』(中学部)(高等部)

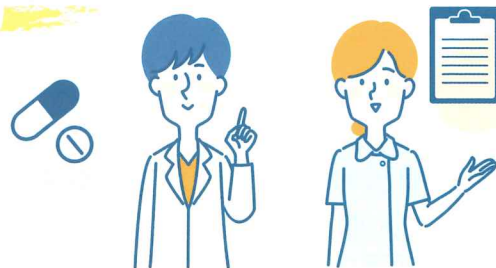
高等部、中学部合同で防災学習を行い、校内の防災機器などを学習しました。また、避難する時の注意点を確認し、みんなで避難経路を確認しながら実際の避難を体験しました。約束を守り、行動することができました。



9月12日 『三重県特別支援学校交流ポッチャ大会』(中学部)(高等部)

三重県内の特別支援学校5校(9チーム)が集まって、オンラインでのポッチャ大会がありました。草の実の中高等部から、AチームBチームの2チームが出場しました。課題のジャックボールに、ボールを近づけて、何点取れるかで勝敗が決まります。草の実に在籍していた懐かしい友だちにも、画面越しに会うことができました

薬局



今回は薬局の紹介です。

薬局は子ども心身医療センター診療部に所属し、薬剤師2名で業務を行っています。

入院患者様を中心とした調剤（お薬を作るという工程）を行ったり、医師を中心としたセンター内スタッフからの問い合わせに対応しています。

調剤では、まずお薬を作る前に、併用薬の可否や前回処方からの変更内容が適正であるかを確認します。上記を確認したうえで、実際に作成し、最後に監査（正しく調剤されたか、処方内容が適正であるかを再確認）を行い、患者様に提供されるお薬が安心して使用できるように努めています。

またセンターの運営に関する業務として、センターの採用医薬品を審議したり、医薬品の情報を共有したりする薬事委員会をはじめ、安全管理委員会、感染管理委員会、褥瘡管理委員会などにメンバーとして参加しています。

上記のように医薬品が適切に使用されるように、薬に関するさまざまな役割を果たしています。



▼「全自動（錠剤）散薬分包機」

散薬や錠剤を1回分ずつ患者様のお名前と用法を記載して分包します。服用日が決まっている入院患者様には服用日も記載します。

センターのシンボルマークができました

センターの入り口で、子どもたちや職員を見守り続けてくれている「なかよし像」をモチーフに作成。「子ども一人ひとりが、その子らしく豊かな人生を送るために」というセンターの理念をもとに、健やかに成長しながら将来に希望を見出している子どもたちをイメージしています。

3枚の葉っぱは「三重県」の「三」、子どもたちを支える「養護者」「支援者」「地域」、センターの前身である「三重県立小児心療センターあすなる学園」「三重県立草の実リハビリテーションセンター」「三重県児童相談センター言語聴覚部門」を表しています。



広報委員より

寒い日が続きますが、光には春を感じられるこの頃です。引き続きコロナ、インフル等に留意して健康にお過ごしください。

広報委員（西井・嶋田・川口・田口・板崎）

三重県立子ども心身発達医療センター

〒514-0125 三重県津市大里窪田町340番5

電話 059-253-2000（代）

FAX 059-253-2031

URL <https://www.pref.mie.lg.jp/CHILDC/>

